



2019年度 出前講座報告書

NO.2

2019年9月25日 福島市保健所

ふくしまの子育てお母さんの心配ごと ～結局放射線ってどうなったの～

福島では、復興が進む一方で、住民の方の中には、いまだ放射線に対する不安が潜在していることが伺われ、口に出しにくい放射線に対する不安がベースにあることを踏まえた支援が求められています。今回は「ふくしまの子育てお母さんの心配ごと：結局放射線ってどうなったの？」をテーマに開催いたしました。



講義の様子



講義では、福島震災直後から現在に至る放射線による健康影響の現状、取り巻く環境等について学びました。これらを通じ、科学的な知見に基づく最も重要な健康のリスクについて、保健の視点でいかに伝えていくか、その大切さを学ぶと同時に、住民への総合的な健康への責任を果たすためには、バランスを持った視点が必要であることを学びました。

講師紹介



福島県立医科大学
災害医療総合学習センター
副センター長
熊谷敦史

略歴：外科医。長崎大学にて外科診療、放射線発がんの研究、国内外の原爆被爆者への医療、旧核実験場周辺地域住民の保健医療支援、緊急被ばく医療の教育活動に関わったのち、東日本大震災直後に長崎大学先遣隊リーダーとして福島入りし、緊急被ばく医療対応および体制整備に従事。現在は福島県立医科大学での緊急被ばく医療対応に加え、学生、医療者への被ばく医療に関する教育や、地域自治体への支援、住民の方々との個別相談、座談会、講演会などを通して、福島の今を住民と見つめ、一人ひとりの将来のための取り組みを進めている。

グループワークの様子

グループワークでは、現在の放射線に関する自己の認識や対応事例等について共有し、保健活動にどのように活かしていくか等、意見交換しました。また、抽出された課題等について、講師の先生から丁寧に説明を頂き対策等についても共有しました。



▶グループワークでは現在の保健相談における対応事例などを通じ、さらに理解を深めました。

アンケート集計結果

参加者は19名、アンケート回収は18名でした。

	そう思う*
研修の資料や進行について 配布資料は適切だった 時間配分は適切だった 進行は適切だった	100% 94% 100%
講義について 講義内容が理解できた 講義は今後の保健活動に役立つと思う 学んだことを同僚に伝えたいと思う	100% 100% 100%
話し合いについて 話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	100%
あなたご自身について 研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う 研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	94% 94%

参加者の感想

- 自分自身も安心して、これから過ごせます。住民の方へも今回学んだこと、何故安心できるのか説明できます。
- 放射線に関することはもちろん、医療者としてどう住民に向き合っていきたいか、保健師としてどうありたいか考えることもできました。
- 今まで様々な放射線の講座を受けてきましたが、一番解りやすく、住民の方にもお伝えしやすい内容でした。特に震災から年月が経っている今ならではの考え方について学ぶことができ、たいへん勉強になりました。

復習ポイント

- ✓ 放射線以外の多くのリスクによる健康影響について
- ✓ 放射線による健康影響について

*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計